

【平成 25 年度 遺族アンケートの意見・感想】

- 緩和ケアのことを病院より紹介頂き、最後に皆様に手厚い看護を頂き本人も幸せな時を過ごすことができました。まだまだ、例えようもない喪失感と向かい合い、自分らしく生きていこうと思っています。私も最後はこのような病棟にお願いできればと思います。
- 緩和ケア、どんな所だろうと不安でした。でも、皆さんのあたたかな笑顔で迎えて頂き嬉しかったです。短い間でしたが本人も、家族も本音で向き合うことができ、思い残すこともありません。
- 入院中は本人の希望を叶えて頂きとても嬉しく思いました。痛がらず、苦しませんが、家族にとって一番でした。
- 他の病院で、お風呂にも入れてもらえず、食事も食べれず、もう長くはないと思いましたが、緩和ケアに移ってから生き返り、最期まで楽しく過ごせたと思います。家族にとっても、看護婦さん達は支えになりました。
これからも緩和ケア病棟という場所はとても大切です。今のまま維持をして行って下さい。
- 家族としては、父がまだしっかり意識があり、話ができる状況で緩和ケアを受けることができたことを嬉しく思います。父が亡くなる二日前、車いすに乗った父、私、妻、そして看護婦さんが酸素ボンベを携えて二人で付き添って頂き、近くの池で写真を撮って頂きました。その時の写真は私の携帯の中に入っていますが、父はとても穏やかな顔をしています。父が旅立っていった最後の時に立ち会えなかったことは心残りですが、きっと安心して目を閉じて逝ったのだろうと推測しております。
人の終末において、このような施設のあることの有難さは家族としてはもちろんのこと、自分自身が終末を迎える時に大きな安心を与えてくれます。
- 緩和ケア病棟にもっと早く入院させて頂きたかったと思いました。病人が「緑に囲まれ、静かで、花が咲いている。ここに変わって良かった。」と喜んでおりました。
- 余命 3 か月、6 か月の宣告をされ、緩和ケアへの転院を薦められましたが、リハビリもやり、希望をもって入院生活を送っており、痛みさえ治まったらまた元気に暮らせるとばかり思っていました。(その後 2 度の転院をした) 転院の度に看護の質、量ともに悪くなり、最後の病院では「ここに居たら殺されてしまう。」と怯えるばかりでした。そこでやっと、決心がつき、緩和ケア病棟へ入院をお願いしました。入院後は医師、看護師の皆様がとてもやさしく、親しく接して頂き、お茶なども一緒に飲んでお話もして頂きました。
もう少し早く（せめて 10 日）手続きをとっておけばよかったと、今はしきりに思い返しております。足りないことばかりだったと思いますが、家族の皆が穏やかに、母を送ってあげられ、本人もきっと感謝していることでしょう。
緩和ケアをしていただきありがとうございました。
- 主人が旅立って数か月、毎夕のように CD をかけ、在りし日の思い出に浸っております。私も最後、皆様のような方々に見守られ、逝きたいと思えます。時々、病院からの景色を思い出しております。
- 看護婦さんには、毎日暑い中、お風呂に入れていただいたり、おむつ交換や食事を残して

しまった時には、ゼリーを冷蔵庫に入れて食べれるときに食べさせてもらったり、点滴も何度も刺し直してもらったり……。今、思い返しても本当に普通の病院では考えられない程、お世話になりました。

ただ、一つだけ、先生からの生命保険提出用の診断書が2か月以上かかり、早くしてもらいたかったです。

○母は気丈な性格で、ずっと一人暮らしで好き勝手に暮らしておりましたが、体力の弱りに伴い自身の終末を常に心配しておりました。緩和ケア病棟に入院することができまして、非常に安心し「ありがたい、ありがたい。」と口癖しておりました。私たちも、緩和ケア病棟の皆様の対応の親切さに嬉しく思っています。母も私たちも本当に満足しております。

○こういった病棟がもっとあった方が、何日も待たされることなく入れて良いと思いました。一般病棟の中で過ごすより家族もストレスが少なく済みました。

○よく見ていただき、家族は安心しておりました。入院費も安く入院生活を送れました。先生にもよく見て頂きました。本人にとって、良かったか悪かったか、気持ちはわかりませんが、最後にわがまを言える職員が一人でもいたのでよかったですと思います。私も最後は緩和ケア病棟に入って静かに送れたらいいと思っています。私の身内も最後は入れたらいいなあと言っています。

○前医で余命3か月と言われ、戸惑っていたところ、当院の話聞き、即決でこちらに決めさせて頂きました。お母さんも初めの頃は、外の景色を楽しんだり、食事が美味しいと最高の笑顔の連続でした。

皆様、お母さん一人のために、本当に良くしてくださいました。日に日に弱っていく母を見て、私も仕事をしながら気が気じゃありませんでした。私どもの心のケアもして下さいました。今でもあの時の事は、思い出たびに胸が熱くなります。ちょうど、つつじ祭りが開かれていた時期でした。お母さんに見せてあげたかったのがこころ残りです。犬が来院した時のお母さんの笑顔、たまらなく最高でしたし、顔つきが全然違いました。それから数日、お母さんは天国へ旅立ちました。最後まで本当に頑張ってくれました。

○母を看病していた頃を振り返ると、家で看ていた時は大変なことが多かったのですが、緩和ケアにお世話になってからは、体も気持ちも随分楽になった気がします。それは、母も同じだったように思います。桜が見られないかもしれないと言われていたのに、6月末まで生きることができ、眠るように安らかに旅立てたのは、皆様が母の為に最善を尽くしてくれたおかげだと思心から感謝しております。今も入院している方に向き合い看病され、大変なお仕事だと思いますが、ご自身の健康に気をつけていただき、患者さんの支えになっていただきたく思います。

○日赤入院退院で、最後にこの病院にて暖かい職員の皆様に大変お世話になりました。患者家族に接する態度、心配り等、配慮に頭が下がります。

○安心して死を迎えられる場があり、幸せだと思います。

○緩和ケア病棟に入院し、家にいた時の痛みや苦しみが和らぎ、穏やかな毎日が過ごせた事が本当に良かったと思います。

○Xmas のベルの演奏は感動しました。父が泣いていたのが印象的でした。

回答に「少し思う」が多いですが、全てに満足は難しいと思うからです。すみません。お世話になりました。

○塩嶺病院で看取って頂けて、本当に良かったとっております。あのまま拠点病院で最後までいたらとても後悔したと思います。今は在宅ケアを推進する方へ向っているようですが、死を迎えるばかりとなった患者に適切なケアを施すのは、素人ではなかなかできるものではありません。緩和ケア病棟が増えて、本当に必要としている人が皆利用できるようになって欲しいです。

父を見送ってから5か月後に今度は私が乳がんを罹患してしまいました。先月、切除術を受けたところです。今回の経験で緩和ケアの有難さが良く分かりましたので、今後必要となったら適切に利用させていただこうと考えております。

○まだ見舞いに行けば逢えるような、不思議な気持ちです。何もせずいられず、少しでも人の役に立てたらと介護の勉強をしていますが、寄り添うことの難しさを改めて実感しているこの頃です。

主人が一番喜んでいた入浴シーンを思い出すと、今でも涙が流れます。

○いつも親切に接して頂き、毎日頭の下がる思いでした。苦しみから解放された最後の穏やかな顔は、これで良かったんだと思っております。

○私の父も義父と同じ病気で亡くなりました。緩和ケアに入ろうと思っていた矢先でした。いろいろな検査や治療は不要でした。それをふまえ、義父を緩和ケアに入れました。入院の際はいろいろ話を聞いて頂きましてありがとうございました。私の父も入退院を繰り返していたため、一度は家に戻れるかと思っておりましたが、進行が早かったのか父と比べると短い入院でした。痛みが強かった分、何とかしてやりたいと思ったのですが、食欲もなくなり、食べれず、楽しみも減っていったのかと思います。私ももっと話をしてあげれば良かったと反省していますが、やはり、実の父とは違い、言いたいことも言えなかったし、できませんでした。でも、心のささえになって頂いた病院の皆様には感謝しております。緩和ケア病棟のベッド数（受入人数）が少ないです。もっと増やして行ってください。

10年前とあまり変わっていないように思います。

○職員の方すべての方が優しく、患者（母）を安心させてくださいました。家族の申し出に対しても、直に対応して下さいました。病院環境も生花が絶えることなく、心を和ませて下さいました。ボランティアによる音楽コンサート、意識が薄らいだ時でも、本人も心安らから満足できたと思います。甘い物好きな母、手作りおやつも嬉しかったと思います。死期に際して、最後を看取れる様、配慮して下さいました事に感謝致します。

ただ、残念だった事として、痛みに対する苦痛から夜間に大声を出し、ご迷惑をおかけしたと思いますが、強い鎮静剤？を受けたことで、意識が朦朧となり口から食事が摂れなくなったことが心残りです。今まで、全て安心して療養していた事が取り消されてしまいました。

これは、制度的に夜間のNsの配置数の問題なのかもしれませんが、夜勤は激務で難しい

でしょうが、今より多い配置ができればと思いました。
命を全うできました。ありがとうございました。安らかな顔でした。何か家族で出来る
ことがあれば、お手伝いをしたいと思います。